



わかりやすい樋

2月20日号のコラムで「不思議な堰」を紹介しました。その後も、用水への関心が続いています。

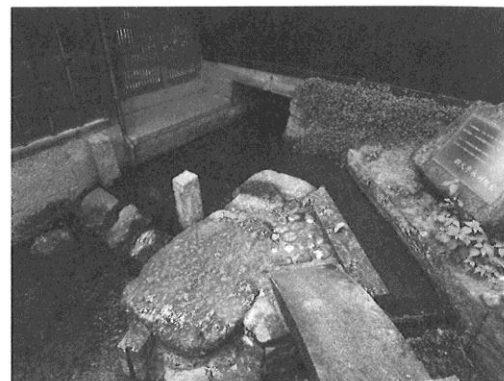
筆者の地元でも、怪我人が出る水争いがあったという話を聞きました。自分の村に有利になるよう、堰に少しでも手を入れる人を諫め、元通りに戻させるのが長老の役目。そんな話を聞いたりしています。



今回は、箕面川から取水する大井用水を見てきました。堰は公園の入り口にあります。駅から徒歩3分くらいの所です。そこから等高線に沿って山裾の水が流れます。

用水に沿って路地（畔？）が続き、途中に、石組みの洗い場があります。種糶を漬けたり、野菜を洗ったりした場所だと思います。美しい石組みが保存されています。急な流れにならないよう等高線に沿って水を流し、美しい石組みが保存されているのを見ると、ムラの人たちが用水を大切に想っておられることが伝わってきます

もう少し歩くと、分水樋に着きます。樋は駅の東北部。旧地名を平尾と呼ぶ場所にあります。駅から徒歩1分。今では町の一部です。そこに昔からのムラがあります。旧家の塀の下から流れ出る用水が、そこで分水されます。一方の水は、芦原池というため池に注ぎます。池の水は6つのムラが利用していたと記憶しています。もう一方の流れは、平尾、西小路、桜、牧落の4つの集落が利用します。多く



▲美しく維持されている樋の石組み

のムラの農業生産を支えてきた用水路です。

樋は綺麗に保存されています。黒塀の下から流れ出ているので、旧家の門構えの一部のように見えます。樋の石組みは美しく維持され、板を嵌める溝は今でも使えそうです。いつ板を嵌めるのか、1枚なのか2枚なのか。それ次第で水量が大きく変わりますから、4つのムラの間で厳しい交渉が行われたことでしょう。制約のある資源を巡る、厳しいやりとりが目に見えます。

100メートルほど下ると、用水は暗渠になります。雨水を流すだけのように見えます。駅前には商店街であり、下流に田圃もありませんから、やむを得ないでしょう。しかし、最近の箕面しか知らない人は、それを貴重な用水とは思わないでしょう。それが、ちょっと残念です。

たった5分ほどのミニ散歩でした。しかし、子ども時代から慣れ親しんだ場所で、新たな大発見をした気分です。

(MBO 実践支援センター代表)